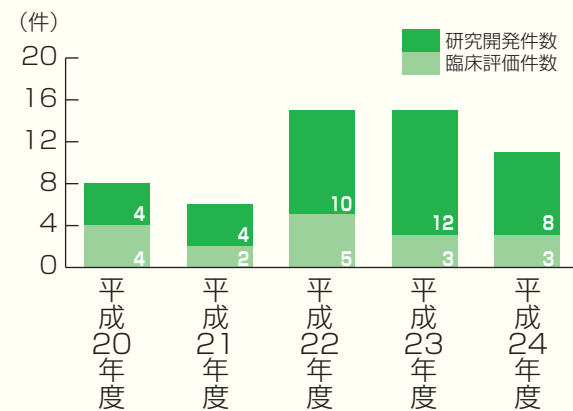


## 研究開発・臨床評価

本当に使いやすいモノを提供したい。研究開発課では、大学や民間企業が開発中の商品や、取り組んでいる調査や研究と一緒にこなうことが多くあります。研究開発課がこれまで蓄積してきた障害児者の行動特性や生活環境に関するノウハウを多くの企業や大学は求めています。市民啓発や啓蒙活動も広義の研究活動と考えます。



研究開発・臨床評価過去5年間の実績



【介助用ロボットの共同研究】

手足の不自由な人のために、家庭内での自立生活をアシストする生活支援ロボット(HSR:human support robotの略)の共同研究(実証実験等)を実施。HSRは、「床の上の物を掴んで拾う」「薄い物を吸引して拾う」「棚、机の上、高い所から物を取ってくる」「カーテンを開ける」などの仕事ができるロボット。操作は、音声認識機能やタブレット端末を使って簡単におこなうことができます。  
トヨタ自動車(株)



【福祉車両展示体験会】

福祉車両を20台以上、障害児用カーシートを各メーカーから取り寄せ、リハセンター駐車場を利用して展示会を実施。障害児の親からのニーズが多い福祉車両やカーシートを同時に比較体験できる場を提供しました。



【仮設住宅調査】

岩手県の仮設住宅に居住する障害者を18名訪問。震災前後における入浴環境の比較等をおこない、仮設住宅および福祉サービスの質の改善を提言しました。住宅総合研究財団、2011年度研究助成(聖学院大学)



【重症心身障害児者の生活調査】

重症児者の地域生活の場のあり方について、通所施設の利用者に対してアンケート調査および訪問ヒアリング調査を実施。ケアホームに対する親の意識についてまとめました。  
横浜国立大学



【特別支援学校福祉機器体験会】

肢体系の特別支援学校および療育センターに対して福祉機器の体験会を実施。市内全校で実施。研究開発課の成果および培ってきた知識や技術を分かりやすい形で市民に伝える活動をおこなっています。



【高齢者のふるえをおさえる装具】

本態性振戦という病気により手や腕がふるえ、食事や字を書くなど生活に支障をきたす患者が多数存在します。そのふるえをおさえる革新的な装具の臨床評価に協力しました。  
(株)菊池製作所



【住生活モデル事業】

NPO法人横浜市まちづくりセンターと連携し、高齢者や障害者等が地域で安心して生活できる住環境を整備しました。国土交通省高齢者等居住安定化推進事業(ケア連携型バリアフリー改修体制整備部門)



【アプリリストの作成】

近年急速に普及しているタブレット端末。障害児にも便利で楽しめるアプリが数多くあり、何十万種類の中から探すのは困難であるため、特別支援学校の協力を得て、アプリのリストを作成しました。HPIにも掲載中。



【電動義手】

東京大学が開発した高分子材料を使った新型動力源を用いた筋電義手の開発に協力しました。これまでの義手と比べて軽量・静音・小消費電力かつスタイリッシュです。  
豊田合成(株)

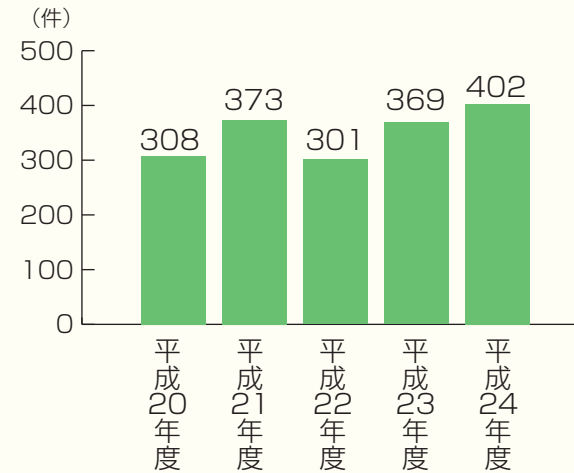


【旅リハ】

リハ事業団の総合力で旅行を手段とした社会参加プログラムを実施しています。また、旅行先の病院とも連携し、支援の輪を拡大しています。今後も、旅リハを通してリハビリテーションの目的を考えています。

## 臨床工学サービス

研究開発課は、障害のある市民ひとりひとりのニーズに応えるために、機械、電気、建築それぞれの専門分野から技術的な解決方法を提案します。地域支援課をはじめ、他部署と密に連携をとりながら、当事者主体の豊かで快適な暮らしをサポートすることが「臨床工学サービス」の役割であると考えています。



臨床工学サービス過去5年間の実績



機械系

【車椅子クリニック】

車いす・シーティングクリニックの目的は、車いすや座位保持装置を利用者の障害状況や使用目的、使用環境に最も適合するように支援しています。最近ではiPadとTVモニターを活用し利用者との情報共有に努めています。



電気系

【呼吸を使って電動ベッドを操作】

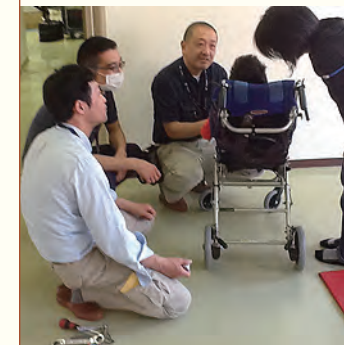
ベッド上での生活を余儀なくされるALSの男性。進行が進み、身体はほとんど動かないが、呼吸機能は維持されているため、電動ベッドの姿勢変更の操作を、息を吹いたり、吸ったりすることで可能になりました。



建築系

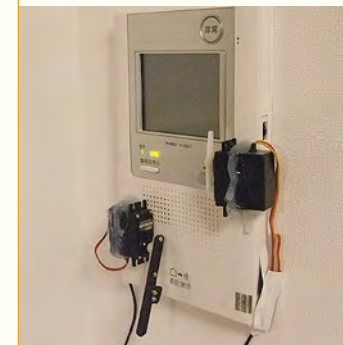
【住宅改造・新築相談】

高齢者や身体障害児者の住宅改造や新築相談の相談をおこなっています。特に最近では、肢体不自由児の新築相談やリフトなど福祉機器を導入したいという相談が増え、各部署と連携しながら対応しています。



【支援センター・療育センタークリニック】

リハ事業団が運営する3療育センター(北部、戸塚、西部)および3福祉機器支援センター(泥亀、反町、中山)において、車椅子クリニック等での処方支援業務を定期的におこなっています。



【インターホンの無線スイッチ操作】

ベッド上でもインターホンの受け答えスイッチが押せるように工夫した例。マンションのエントランスホールのドア錠の開閉も可能。スイッチはバンドでとめており、退去時には簡単に取り外せます。



【住宅改造・発達障害】

知的障害や発達障害を対象とした住宅改造を積極的にすすめています。療育の手法を活用し、目的別に部屋を区画する手法や子どもの行動特徴に配慮した安全対策の手法などを取り込んでいます。